

令和6年度 第3回大阪府立貝塚高等学校学校運営協議会【議事録】

【実施日】 令和7年1月22日(水)15:30—16:50

【出席者】 委 員:後上様、鉄沢様、奏様、蓑部様(50音順)

川端校長、中村教頭、四反田首席、松下首席、植野3学年主任、
西本進路指導部長、 染次(書記)

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議 事

(1) 学校教育自己診断の結果について(資料あり)[川端 校長]

アンケートの実施について

- ・ 例年、11 月から 12 月にかけてアンケートを実施している。
- ・ 回答形式は「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」の 4 択となっており、令和 4 年度から令和 6 年度までの経年変化を示した資料を作成している。

今年度の結果分析

- ・ 今年度の肯定率は、昨年度と比較して低下している。

特徴

- ・ 学校生活全般に関する評価は、3 年生が高い一方で、1 年生の評価は低い傾向が見られる。
- ・ 保護者の回答では、「保護者として、学校の授業参観や学校行事に参加したいと思う」「学校では、PTA 各種委員会や研究会、学校行事への参加等、PTA 活動が活発である」以外の項目で、否定的な回答が多くなっている。

生徒の学校教育自己診断結果

- ・ 「授業で、グループ(班)で活動することがよくある」の項目は大きく上昇しており、特に 3 年生では 15%増加した。これは、生徒の積極的な学びと教員の指導の工夫による成果であると考えられる。
- ・ 「わかりやすく楽しい授業が多い」との回答は、3 年生が 82.8%に対し、1 年生は 56.2%と低く、1 年生の半数以上が授業のわかりやすさや楽しさを感じていないことがわかる。
→ この数値は、過去 3 年間の 1 年生と比較して約 15%低下している。

教職員の学校教育自己診断結果

- ・ 「貝塚高校の教育活動には、他の学校にない特色がある」「各教科は、教材の精選・工夫を行っている」との項目は肯定率 90%を超えている。
- ・ 「教員が ICT 機器を活用している授業が多い」は 95%を超える高い評価となっている。
→ しかし、生徒アンケートの結果と照らし合わせると、教員の努力が必ずしも生徒の「わかりやすく楽しい授業」につながっていないことが課題として浮かび上がる。
- ・ 「教職員は、学習指導の方法や内容について、他の教科の担当者と話し合う機会がある」の肯定率は 60.9%。
- ・ 「日々の教育活動における問題や悩みについて、気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができている」は 68.1%。

→ 全教員が一丸となって生徒の学びを向上させるために、さらなる取り組みが求められる。

→ そのためには、授業見学や成績会議に加え、学習指導の工夫や課題を共有する場を設けるなど、会議の在り方にも工夫が必要である。

進路・人権について

- 生徒の自己診断結果では、【13.「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」】、【14.「学校は進路についての情報をよく知っている」】といった項目の結果から、「進路」について考える機会が十分に確保されていることがうかがえる。

- また、人権や命の大切さについても、生徒がしっかりと考える機会を持っている。

一方で、教職員の【8.「教職員は生徒の意見をよく聞いている」】の項目は、昨年度と比較して 8.6%減少しており、生徒の同様の項目も 4.6%減少している。

→ すべての教員が日々生徒の意見を聞く姿勢を持っているため、この結果は意外ではあるが、「生徒の言いなりになる」という意味ではなく、生徒の意見を尊重し、まず話を聞く姿勢をより一層意識していく必要がある。

今後も、生徒が自ら意見を表明し、その意見が尊重される環境を整えることを全教職員で取り組んでいきたい。

学校行事

- 今年度の結果は、例年と比較して大きな変化は見られなかった。
- 生徒【26.「授業や部活動で地域の人々や近隣の学校との交流の機会がある」】の項目では、学校として地域とのつながりを強化する取り組みを行ったものの、生徒の実感としては十分に伝わっていないことがうかがえる。
- しかし、これ以上新たな地域交流の機会を増やすことは教員の負担も大きく、現実的に難しいため、現在の取り組みをより効果的に工夫していくことが課題となる。

教職員の状況

- 教職員【10.「生徒による問題行動が起こったとき、組織的に対応できる体制が整っている」】が 12%減少、【18.「日々の教育活動における問題や悩みについて、気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができている」】が 16%減少している。

→ これらの低下の要因が明確に特定できていないことが課題であり、改善策を検討する必要がある。

保護者の意識

- 保護者【12.「学校は、家庭への連絡や意思疎通を、積極的に、きめ細かく行っている」】、【3.「学校は、テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」】の結果から、教員の日々の取り組みが十分に伝わっていない可能性が考えられる。
- 生徒や保護者とのやり取りの頻度や手法に課題があるのかもしれない、特に ICT の活用が影響している可能性があるため、この点について具体的な対策を検討していきたい。

全体として、今年度は課題が多く見られる結果となったが、次年度に向けて改善策を模索し、よりよい環境づくりをするためにお聞きしたい。

(質疑・提言)

- 今年度は教員の入れ替わりが一気に進んだこともあり、意思疎通が十分にできなかった部分があったのではないかと。(植野)
- マイナス面を聞くと寂しい気持ちになるが、先生方は働き方改革の影響もあり、このような面に十分な時間を費やせなくなっているのではないかと。信頼関係の構築には時間が必要であり、例えば「17 時以降は電話がかからない」といった状況は、働いている保護者にとって影響があるのではないかと。
- 学校内で話し合うムードはあるのか？
→ 同じ学年内では話し合う場があるが、全体での話し合いは職員会議や研修などの場に限られ、十分にできているとは言えない部分もある。
- 中学校の先生とも話していると、ベテラン層と若手層に分かれ、中間層が少ないという話が出ている。若手の先生がベテランの先生と話しづらく、結果として孤立してしまうことがあるのではないかと。教員同士が教科に関係なく話せるような雰囲気は以前よりも薄れてきているように感じる。
- 現在、保護者対応で特に負担を感じている先生はいるか？
→ 3年生では、保護者の方は寄り添ってくださる方が多いため、特に苦労は感じていない。他学年についてはわからない。
- 特に問題としては聞こえてこないため、大きなトラブルは起こっていないのかもしれない。ただ、保護者の方に寄り添いながら対応している先生も多く、保護者も同じように対応してくれていると思う。しかし、アンケートの数値を見ると、難しい部分もある。(校長)
- 保護者と先生が互いに寄り添っているのは、とても良いことだと思う。
- 学校に来ることを「楽しい」と感じたり、行事を楽しめているのは、充実した学生生活を送れている証拠であり、非常に良いことだ。

(2)授業アンケートの結果について(資料あり)[教頭]

- 授業アンケートは、生徒がすべての授業について回答する形式になっている。すべての結果を出そうとすると 100 枚では足りないほどの量になるため、全体の平均を算出している。そのため、非常に高い評価や低い評価があったとしても、結果としては平均値が示されている。
- 例年通り、過去 4 回分の結果と比較したところ、グラフの形に大きな変化はなく、ほぼ同じ傾向が見られた。4 つの学校で同様のアンケートを実施しているが、本校は比較的高い評価を得ていると感じる。
- アンケートの No.1、No.2 は「自分ごととしての意識」に関する項目であり、比較的高い数値が出ている。これは生徒がやる気を持って取り組んでいることを示している。
- No.3～No.7 は、授業の評価や満足度に関する項目であり、自己評価に比べてやや厳しめの結果となっているが、それでも肯定率は 9 割と非常に高い。
- No.8、No.9 は授業後のアンケートであり、やや評価が下がる傾向がある。この結果については、もう少し向上できる余地があると感じる。
- 7 月(1 学期)と 12 月の結果を比較すると、1 学期の方がやや高い数値となっている。これは行事の影響も考えられる。
- 全体としては、例年と大きな変化はなく、高い評価が維持されている。

(質疑・提言)

- 結果としては非常に高い数値が出ており、生徒たちが授業に満足していることがわかる。それだけ教員が努力されている証だと思う。
- 引き続き、アンケートを実施し、授業の質向上に活かしてほしい。

(3)学校運営計画(今年度評価/来年度目標)(資料あり) [川端 校長]

令和 6 年度 学校運営計画及び学校評価(1 枚目裏面)「学校教育自己診断の結果と分析」

【1. 確かな学力の育成】について

- 「わかりやすく楽しい授業」の実現に向け、「わかった・できた」からさらに主体的に学びを深めることを今年度の重点目標として取り組んできた。
- ICT を活用した授業を展開しているものの、生徒の評価は必ずしも高くない。授業アンケートの結果は良好である一方で、「わかりやすく楽しい授業」とは感じていない生徒もいる。これは、生徒の学びに対する実感と授業の取り組みが完全には一致していない可能性がある。
→生徒同士の学びの共有が進んでおらず、まずは生徒の実態を正確に把握し、評価と改善のサイクルを迅速に回していく必要がある。
- そのために、良い取り組みを積極的にピックアップし、全体へ広めていくことが重要だったと反省している。もっと意識的に発信していけば、より効果的な改善につながったかもしれない。

【2. キャリア教育、人権教育の推進】について

- 「キャリア・人権教育」は 3 年間を通して継続的に実施している。人権教育はすべての基盤となるものであり、激しく変化する社会に適応する力や、自ら決断していく力を養うことが求められる。これは教員の中でも共通認識があるため、引き続き推進していきたい。
- 生活指導に関しては、生徒と対話する際に、生徒の背景を理解し、把握する力が学校全体として低下してきているように感じる。
ただし、「自主自立」とは何でも自由にしてよいということではなく、一定の規律が必要である。そのバランスを意識しながら指導していくことが大切であり、これはキャリア教育にもつながる要素だと考えている。

【3. 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成】について

- SC(スクールカウンセラー)や SSC(スクールソーシャルワーカー)など、担任以外の大人と話す機会が増えたことで、生徒はこの取り組みを肯定的に捉えている。

【4. 力と熱意を備えた教職員集団と学校組織づくり】について

- 有識者の方々の尽力により導入は進んでいるが、学校全体で統一的に活用する体制はまだ十分ではない。
経験の浅い教員から「チャットでやりとりしましょう」と提案された際、世代間の感覚の違いを強く感じた。対面でのコミュニケーションを重視する世代と、オンライン上のやり取りを軽快に進める世代との間にギャップがあると考えられる。
- 今年度、長年勤めていた教員が退職したことで、コミュニケーションが希薄になっている可能性がある。ICT を活用すること自体に時間がかかってしまうことも課題の一つであるため、

メンター・メンティー制度などを活用し、「絆」を深める取り組みを進めていきたい。

(質疑・提言)

- チャットのやりとりは、文章の受け取り方によって印象が大きく変わる。最近の若い世代ではチャットのみで済ませる傾向があるが、対面でのコミュニケーションを重視する世代にとっては違和感が生じることもある。
→ チャットを利用する際には、何度も文章を推敲し、適切に伝わるよう工夫する必要がある。在職歴の長い教員は相手の受け止め方を想像しながらやりとりをしているが、世代を超えた対話を通じて、コミュニケーションの練習をする機会を大切にしていきたい。(校長)
- 自立支援コースの希望進路が 100%実現しているが、その要因は何か？
→ 1 年生の頃から継続的に実習を行い、自分に適した職種を模索しながら経験を積んでいる。途中で進路変更するケースもあるが、粘り強く取り組める環境が整っている。
- 今年度は「自立」だけでなく「進路」の面でも成果があった。
→ 非常に素晴らしいことだが、コースの生徒が就職した後、どれくらいの期間働き続けているのかを調査するアンケートを実施してもよいのではないかな？
→ 同窓会を半年ごとに開催しており、最長 9 年間続けて働いている卒業生もいる。ほぼ全員が次の就職先を見つけ、前向きに取り組んでいる状況である。
- 福祉との連携を強化することが、長期的な就労の継続につながる。今後も指導をよろしくお願いしたい。

【次年度の目標について】

- 次年度の方向性は、現行の方針を引き継ぐ形となる。
- 令和 6 年度の中期的目標の方向性も基本的には変わらないが、重点目標や具体的な目標については、必要に応じて若干の変更を加える可能性がある。
- 地域目標に関しては、関係機関の了承を得なければ運営が難しいため、詳細をよく確認した上で、質問があれば随時対応する。

(質疑・提言)

- 4の(1)と(2)に「チーム貝塚」という表現があるが、具体的にどのような取り組みがあるのか？
→ チームとしてのつながりを意識し、「チーム貝高」ではなく「チーム貝塚」とした。
→ 地域との連携は年間 40 回以上実施しており、市役所の魅力づくり推進課や貝塚市の社会教育課とも連携している。来年度はさらに連携を広げ、地域とのつながりを強化していく予定。
→ 「貝塚といえば貝高がある」と地域の皆さんに認識してもらえようような取り組みを進めていきたい。
- 引き続き、地域との連携をよろしくお願いします。

(4)貝塚高校教育フェスタについて(資料あり) [松下 首席]

(概要)

- 貝塚高校での 1 年間の学びを発表する場として、毎年 2 月初旬に開催。

- 今年度は、特定の教科のみならず、学校全体で盛り上げるために、各教科から 1 つずつ発表を行う形式とする。
- 貝塚高校での学びを、校内外に広く発信する場とする。
- コロナ禍で来賓の招待を見送っていたが、今年度は再び来賓の方をお迎えする予定。
- コスモシアターでの発表と、学校内での展示を併せて実施。

(質疑・提言)

- 今まで何度開催されているのか？
→ 第 24 回目の開催となる。
- 保護者だけでなく、より多くの方にご案内をしていただきたい。

→ 教育フェスタを通じて、貝塚高校の学びの成果を地域にも広く伝えていきたい。

(質疑・提言)

(5)進路指導の状況について(資料あり) [代理四反田 今井 生活指導部長]

(現状報告)

- 遅刻・欠席の集計は年度途中のため未集計。例年第一回で報告している。
- 懲戒件数は昨年度と同程度。
- 懲戒の内訳:外部からの連絡 7 件、カンニング等の不正行為は昨年度より増加。

(服装・生活指導)

- 制服購入:女子はスカートかズボンを選択可能。
- 服装の乱れが目立つ(例:ブレザーなし、ジャージをスカートの下に着用、ひざ掛けを巻くなど)。→ 改善が進んでいない。
- 交通マナー指導は継続。以前はマナーが悪かったが、コーンの設置などで改善が見られる。

(今後の取り組み)

- 来年度、闇バイトに関する講習会を実施予定。
- 精勤賞制度について
 - 2022 年度に決定。
 - 図書カードからクオカードに変更。
 - 2023 年度より金額を 300 円に変更し、差をつける形に。

(質疑・提言)

- カッターシャツを着ない生徒がいるとのことだが、具体的には？
→ T シャツのまま登校し、制服を鞆に入れて持ち歩き、学校に着いてから着替える生徒がいる。

(6)広報の状況について(資料あり) [四反田 首席]

- 年間の活動はご覧の通り。全体的に減ってきているのが気になる。説明会が昨年より少なく、今年の 12 月は昨年 75 名(募集人数を減らしていた、かつ当日インフルエンザの欠席者が多かった)、今年は多めに募集して 134 名。
- 1 月は空欄だが、中学生 48 名、保護者 26 名となっている。12 月と 1 月を合わせると、減少はそれほどでもないかもしれない。合計すると 182 名、昨年は 128 名なので増えている。

かも。これが本校だけなら減っていないので少し安心した。

・2月にもあるので、引き続き頑張っていくつもり。

- 今年はInstagramを始めた。現在フォロワーは193名。学校説明会等でチラシを配布したり、色々なところで活用している。表紙も工夫している。先週アップデートされたが、正方形にして隙間が空いている部分がある。それでも全体で見たらチラシのようになっている。学校の活動を動画で紹介していて、クリスマスパーティーの動画も作った。この動画を作るのに何時間もかけており、リアルタイムでの更新は難しいが、クオリティーは高く保っている。
- 生徒が映るので、ひとつひとつに了承を得ているが、スピードを上げて活発にしていきたい。要望があれば、Googleフォームで確認を取りながら進めている。

(質疑・提言)

- 実際の画面を見ると、保護者も安心できると思うので、ぜひ続けてもらいたい。

(7)進路指導の状況について(資料あり) [西本 進路指導部長]

- 【1. 進路決定状況】

1月15日時点でほぼ確定。未定の生徒については、現在も努力中なので、最後まで走り抜けてほしい。

- 【全体状況】

状況は下の表の通り。種類別に具体的に示すと、現在、41名が4年制大学に進学。進学先の学部はほとんど文系で、中でも人間学部(心理学)が人気。

今年は2名が薬学部に進学するという、非常に珍しいケース(男女各1名)。

指定校推薦はそれぞれ22名、19名となっている。一昔前と比べ、指定校推薦に固執せずチャレンジする姿勢がみられる。公募推薦も8名が頑張った。なお、1月末と2月初頭に入試が実施される。

- 【短大】

今年は12名。短大進学を希望する生徒が減少傾向にあり、半数は幼児教育を志望、残りは生活・ファッション系(女子が多い)。

- 【専門】

毎年多いが、医療分野と衛生分野が多く、今年はさらに文化・教養分野(公務員、トリマーなど)が増加。

- 【大学校】

今年も在籍者がいる。

- 【看護系】

大阪大谷大学は看護学部ではなく薬学部である。今年は全員が年内合格を勝ち取った。

- 【就職】

就職は22名。職種は製造業や事務など多岐にわたり、知名度のある企業も含む。一人が西日本旅客鉄道に合格。

- 【その他】

貝高の教員は、面接指導や学力面でも個別に対応する温かい学校環境を整えている。もちろん、生徒も一生懸命に取り組んでいる。

- 【2. 最近の動向】

今年は受験者なし。志や興味を持つ生徒を集めたところ、約40名が参加。泉の森ホールでのイベントを開催し、生徒には積極的な参加を促している。

進学者の8割がJASSOの予約を完了。

ハローワーク岸和田に登録しており、現在、結果待ちの状況。

(質疑・提言)

- 【就労】

→ ハローワーク就職について、最後まで行動を起こした生徒が3名、残りの3名はアルバイトを継続しても良いとの判断。

女子生徒からはアパレルでの就労希望が多いが、彼女たちの希望する服の系統の求人は、ハローワークでもなかなか見つからず、生徒と現実とのギャップが問題と感じられる。

(8)3年次団より [植野 3年次主任]

- 今年度の生徒たちは、進路に関して例年よりも未定の状態が多い印象を受けた。

→動き出しが遅い生徒も目立ち、その原因として、生徒自身に主体的に行動するよう促してきた結果かもしれないと感じている。一方で、「自分からやらなければ」という意識を持った生徒たちはしっかり行動していたため、進路指導の在り方について振り返るべき点があるのではないかと思う。

- この学年は残念ながら遅刻者が非常に多いという特徴もあった。5 クールのそれぞれの期間で遅刻を5回繰返し、早朝登校の指導を受ける生徒が、学年が進むごとに増加した。現在は卒業が間近でテスト期間でもあるため、残りの登校日数に限りがあるため現在も奉仕活動として製本作業を手伝っている
- 遅刻は多いが欠席することは少なく、生徒たちは学校が好きなのだと感じられる場面も多々あった。
- 生徒たちは行事が好きで、先週のクラスマッチでは男女に分かれて大いに盛り上がった。また、今週の集会では、大きな声で楽しそうに歌う姿が見られ、その元気さに感心した。
- 生徒の中ではこの学年を「ハズレ学年」と評す声も聞こえてくる。他学年と比べて厳しい指導を行った部分もあったため、アンケート結果を確認するまでは不安もあったが、生徒たちはしっかりとこちらを向いてくれていたのと感じ、安心した。
- 彼らには、18歳を迎えた今、自立することを目標にしてほしいと伝えてきた。これから卒業した後、彼らがそれぞれの道で大きく飛躍してくれることを心から願っている。

(質疑・提言)

- 生徒にとって学校が素晴らしい場と感じてくれたら、いいなと思う。

(9)その他

- なし

6. 質疑応答

- なし

7. 閉会